

ばい煙発生施設設置(使用、変更)届出書

年 月 日

都道府県知事 殿
市 長

届出者 氏名又は名称及び住所並びに法人
にあつてはその代表者の氏名 印

大気汚染防止法第6条第1項(第7条第1項、第8条第1項)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり
届け出ます。

工場又は事業場 の名称		整理番号	
工場又は事業場 の所在地		受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設 の種類		施設番号	
ばい煙発生施設 の構造	別紙1のとおり。	審査結果	
ばい煙発生施設 の使用の方法	別紙2のとおり。	備 考	
ばい煙の処理の 方法	別紙3のとおり。		

備考1 ばい煙発生施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。

- 2 印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。
- 5 氏名(法人にあつてはその代表者の氏名)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあつてはその代表者)が署名することができる。

記 載 要 領

設置（使用,変更）のうち該当する事項以外は二重線で抹消する。

設置（使用,変更）届出書に加えて,「参考事項」及び「排出基準計算書」を添付すること。

なお,「参考事項」及び「排出基準計算書」の様式は環境省ホームページには掲載されていないので県北県民センター環境・保安課ホームページの「申請・届出書様式」からダウンロードもしくは県北県民センター環境・保安課大気担当に問い合わせること。

届出書を提出する日を記入する。

茨城県知事（茨城県県北県民センター扱い）あてとする。

届出者の氏名は,法人にあっては代表者あるいは代表者から権限を委任された者の氏名を記入する。住所は届出者のものを記入する。

該当する条項以外は二重線で抹消する。

ばい煙発生施設の設置場所を記入する。

届出施設の項番号と種類を届出施設を記入する。

ばい煙発生施設の構造

工場又は事業場における施設番号			
名称及び型式			
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		年 月 日	年 月 日
使用開始予定年月日		年 月 日	年 月 日
規	伝熱面積(m ²)	}	
	燃料の燃焼能力 (重油換算l/h)		
	原料の処理能力(t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量(KVA)		
模	触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)	}	
	焼却能力(kg/h)		
	乾燥施設の容量(m ³)		
	電流量(KA)		
	ポンプの動力(KW)		
	合成・漂白・濃縮能力(kg/h)		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本工業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

記 載 要 領

施設ごとに付する番号又は付号（事業所で任意に決める）を記入する。

設置届出の場合は空欄とする。

設置届又は変更届の場合は「実施の制限」があるので様式第1の届出年月日の60日以後の日を記入する。
使用届の場合は空欄とする。

使用届の場合は空欄とする。

下表を参照して該当公項目を記入する。

規 模 \ 対 象 施 設	1	2	3	4	5	6	7	8	8-2	9	10	11	12	13	14	15	16
伝 熱 面 積 (m ²)																	
燃料の燃焼能力 (重油換算L/h)																	
原料の処理能力 (t/h)																	
火格子面積又は羽口面積 (m ²)																	
変圧器の定格能力 (KVA)																	
触媒に附着する炭素の燃焼能力 (kg/h)																	
焼 却 能 力 (kg/h)																	
乾燥施設の容量 (m ³)																	
電 流 容 量 (KA)																	
ポンプの動力 (KW)																	
合成・漂白・濃縮能力 (kg/h)																	

規 模 \ 対 象 施 設	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
伝 熱 面 積 (m ²)																
燃料の燃焼能力 (重油換算L/h)																
原料の処理能力 (t/h)																
火格子面積又は羽口面積 (m ²)																
変圧器の定格能力 (KVA)																
触媒に附着する炭素の燃焼能力 (kg/h)																
焼 却 能 力 (kg/h)																
乾燥施設の容量 (m ³)																
電 流 容 量 (KA)																
ポンプの動力 (KW)																
合成・漂白・濃縮能力 (kg/h)																

重油換算はカッコ書き()で記入する。

- * 変更届の場合は、別紙1, 2, 3とも既届出内容(変更前)を左欄に、今回届出内容(変更後)を右欄に
対照させて記入し、欄外上部に「変更前」「変更後」を表記する。

ばい煙発生施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号							
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	時～時 時間/回/日/月		時～時 時間/回/日/月			
	季節変動						
原材料 (ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類						
	使用割合						
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛 弗素分	いおう分 カドミウム分	鉛 弗素分		
	1日の使用量						
燃料又は電力	種類						
	燃料中の成分割合(%)	灰分	いおう分	窒素分	灰分	いおう分	窒素分
	発熱量						
	通常の使用量(最大使用量)						
	混焼割合						
排出ガス量 (Nm ³ /h)	湿り	最大	通常	最大	通常		
	乾き	最大	通常	最大	通常		
排出ガス温度()							
排出ガス中の酸素濃度(%)							
ばい煙の濃度	ばいじん(g/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	いおう酸化物 (容量比ppm)	最大	通常	最大	通常		
	カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	塩素素(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	塩化水素(mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	最大	通常	最大	通常		
	窒素酸化物 (容量比ppm)	最大	通常	最大	通常		
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最大	通常	最大	通常		
参考事項							

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

記 載 要 領

別紙 1 と同じ番号を記入する。

非常用施設の場合は空欄とする。

年間を通して稼働する場合は「なし」、変動のある場合は具体的に記入する。(例： 月 日～ 月 日)

また、非常用の施設の場合は年間の稼働時間 (h/年) を記入する。

予備施設、交互使用施設は余白に明記する。

原材料を使用し、原材料からばい煙の排出がある場合は記入する。

A 重油、灯油、L P G 等具体的に記入する。

この届出値を超えないことを保障できる数値を記入する。

低発熱量を記入する。

「最大」は施設を定格能力で運転させた場合の数値、「通常」は平均的な運転状態での数値を記入する。

1 種類の燃料のみ使用する場合は「専焼」、2 種類以上の燃料を使用する場合はその使用割合を記入する。
使用割合が激しく変動する場合は、添付書類の「参考事項」にその状況を記入する。

「最大」「通常」は と同様に記入する。

排出口での計算値又は測定値の平均的な数値を記入する。

備考 2, 3 参照。排出基準がかかる項目について記入する。「最大」は、この届出値を超えないことを保障できる数値を、「通常」は、計算値又は測定値の平均的な数値を記入する。標準酸素濃度補正方式が導入されている施設については、補正前の数値を記入する。

備考 4 参照。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号				
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号				
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式				
設置年月日		{ 年月日	年月日	
着手予定年月日		{ 年月日	年月日	
使用開始予定年月日		{ 年月日	年月日	
処理能力	排出ガス量 (Nm ³ /h)	最大		
		通常		
	排出ガス温度 ()	処理前		
		処理後		
	ばい煙の濃度	ばいじん (g/Nm ³)	処理前	}
			処理後	
		いおう酸化物 (容量比ppm)	処理前	
			処理後	
		カドミウム及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前	
			処理後	
		塩素 (mg/Nm ³)	処理前	
			処理後	
		塩化水素 (mg/Nm ³)	処理前	
			処理後	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/Nm ³)	処理前		
		処理後		
	鉛及びその化合物 (mg/Nm ³)	処理前		
		処理後		
	窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前		
		処理後		
ばい煙量	いおう酸化物 (Nm ³ /h)	最大	}	
		処理前		
		通常		
		処理後		
捕集効率 (%)	ばいじん	}		
	いおう酸化物			
	カドミウム及びその化合物			
	塩素			
	塩化水素			
	弗素、弗化水素及び弗化珪素			
	鉛及びその化合物			
窒素酸化物				
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	時~時 時間/回/日/月	時~時 時間/回/日/月	
	季節変動			
排出口の実高さ Ho(m)				
補正された排出口の高さ He (m)				
排出速度 (m/s)				

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 3 補正された排出口の高さHeは、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。
- 4 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添附すること。

記載要領

処理施設又は排出口（煙突）に付する番号又は付合（事業所が任意で決める）を記入する。

別紙 1 及び 2 と同じ番号を記入する。

処理施設の種類のサイクロン，バグフィルター等具体的に記入する。

処理施設の設置，着手予定，使用開始予定の年月日を記入する。

* ~ は，処理施設の処理能力について記入する。排出口（煙突）のみの場合は記入しない。

排出口（煙突）でも湿り排出ガス量を記入する。

「処理前」は処理施設直前での温度，「処理後」は排出口（煙突）での温度を記入する。

処理する項目について，施設の定格能力運転時の処理前，処理後の乾き排出ガス中の濃度を記入する。

より計算した値を記入する。

処理施設の使用状況について記入する。

地面から排出口（煙突）の頂部までの高さを記入する。また，排出口の形状及び寸法（内径）を記入する。

算定方法については P . 7 2 参照。